解　説

鈴木　珠里

イランを代表する女性詩人フォルーグ・ファッロフザードは、一九三五年テヘランの中流家庭に生まれた。元軍人で独自の教育方針を持つ父親のもと多感な幼年期を過ごし、中学に入る頃にはすでに作詩を始める。中学在学中に家族の反対を押し切って一一歳年上のパルヴィーズ・シャープール（一九二四―二〇〇〇）と一五歳で結婚、それから間もなく処女詩集『囚われ人』を発表し、イラン文学史上初めて女性の視点と言葉で書かれた詩集として高い評価を受けた。その間、長男カーミヤールを授かるが、婚姻生活は長くは続かなかった。離婚原因は、フォルーグの作品における個人的テーマや率直な感情表現が、当時のイラン社会では高い評価を受ける以上に非難の対象であったこと、男性編集者や文学者たちと派手に交流したために不倫の噂が後を絶たなかったこと、そしてフォルーグ自身が「鳥かご」と譬えた家庭生活に耐えられなくなったことなどが挙げられる。鬱状態に陥ったフォルーグは、息子の親権を夫に譲り、自分から離婚を切り出すに至ったが、実家に戻っても状況が改善されることはなかった。数度自殺未遂を繰り返した後、療養のために行ったイタリア旅行が功を奏し、帰国後、文学活動を再開した。雑誌『フェルドゥスィー』でイタリア旅行記「異国にて」を掲載、また第二詩集『壁』第三詩集『反逆』を次々に出版した。この中でフォルーグは家庭生活の閉塞感、愛の喜びと苦しみ、離別した子供への思慕などのテーマを、処女詩集以上に情感豊かで繊細な言葉で表現し、詩人としての成長を見せた。

さらにフォルーグが飛躍するきっかけとなったのが、映画監督エブラヒーム・ゴレスターン（一九二二～）との出会いであった。彼によって才能を見出されたフォルーグは、ハンセン病療養所を題材にしたドキュメンタリー映画『あの家は黒い』の監督を務め、その作品は国内外で大きな反響を呼び、旧西ドイツのオーバーハウゼン国際短編映画祭で最優秀賞を受賞した。文学活動においても、第四詩集『新たなる生』で、人間の哲学的テーマや社会批判を含んだ独自の詩的世界を創造し、また技術的にも革新的な語彙の組み合わせやリズムを取り入れ、高い評価を受けた。三〇歳を過ぎてようやく詩人・映画監督として円熟期に入ったように見えたフォルーグであったが、妻子あるゴレスターンとの公私にわたる関係が自らを精神的に追い詰めることとなり、一九六七年、自ら運転する自動車の事故により早世した。享年三二歳。

＊　＊　＊

書簡集『初めての愛の鼓動～夫パルヴィーズ・シャープルへの手紙～』は、フォルーグがパルヴィーズと出会ってから離婚後までの約五年間にわたって彼に出した手紙をまとめたものである。パルヴィーズの死後、遺品整理をしていた友人によってフォルーグの手紙が発見され、四〇年以上経った二〇〇三年に書簡集として出版された。

本翻訳では、フォルーグがパルヴィーズと離婚してからイタリアに長期滞在をした一九五六年頃の手紙を抜粋した（各番号は訳者による）。イタリアから元夫に宛てたこの手紙は、フォルーグの内面が赤裸々に綴られた極めて私的な記録であり、当時のフォルーグの状況や心情、そして離婚後の二人の関係を知る上で非常に貴重な資料である。